

# かわいい子と旅したく ~ 進路と留学

親になってから、自分の人生を振り返ることが多くなりました。子どもに触発されて自然に思い出すこともあるし、いちばん身近な参考例として、「私はどうだったっけ」って考えることもあります。皆さんはどうですか？子どもたちの誕生で、私は今までの人生すべてを「これでよかった」と思うようになりました。でも、子育てをとおして自分の過去を見直していると、「あのとき、ああいう道もあったな」「なんでああしたのかな」と思うこともたくさんあります。主に自分の「進路」の選択の仕方にも納得がいけない。学校や塾の「進路指導」も、やっぱり見直したほうがいいんじゃないかな！なんて、自分を棚に上げて思います。

若者たちの持つ、星の数に等しい無限の可能性を、私たち大人は知っています。でも、いざ「進路」となると、大人側が、子どもの選択肢をむしろ狭くしてしまう場合もありますよね。中学卒業後の進路を「進学」に絞り、偏差値をもとに、「頑張ったら行ける高校」を第一志望、「安全圏の高校」2、3校を滑り止めに提案する、という具合に。ひな形があって、そこに当てはめていく。「いや、常識的に考えて進学でしょ」という意見も分かるし、そういう進路指導が「悪い」わけではありません。ただ、もっとこう、大人だからこそ知る世の広さや面白さを子どもに伝えるような、そういう導き方があってもいいんじゃないかと思うんです。

親としては、進路に限らず子どもが自分で決めようとする気持ちは大切にしたい。だけど、中高生の視野は狭いこともあります。例えば子どもが知り得る、もしくは想像し得る「夢を実現させるための方法」って、とっても「正統派」で「王道」じゃありませんか？医者は医学部で、美容師は美容専門学校、みたいな。でも、医学や美容に携わる職業も様々だし、邪道を行ったことが、いずれ強みになる場合もあります。私は中高時代、とにかく留学したかったから、国際交流が盛んな高校と、外国語大学に進学しました。でも、将来をとおしてどう外国にかかわっていきたい？ってところから考えていたら、違う選択肢もあったはず。だから、少なくとも過去の自分のような子には、そういうことにも目もいくような、大人のちょっとした働きかけもやっぱり必要なのかもって思います。

もしかしら、進路のことを学校や塾にお任せしがちな私たち

親も、やっぱりちょっと考えてみてもいいかもしれない。「かわいい子には旅をさせよ」と言いますが、人生を旅とすれば、進路を考えること・進路に向かい何かすることは、旅の計画・旅支度をするようなもの。本来ワクワクすることです。せつかくだから、ゲーム感覚で子どもと思いを巡らせたら楽しそうじゃありませんか。ここでは、私自身が選んできた進路と、それに深く関わっていた長期・短期留学の経験を例に挙げ、ある程度は留学のハウツウもお伝えしつつ、子どもたちの旅立ちに大人がどうかかわっていけるのかを考えていきたいと思っています。ご意見、体験談もお待ちしております。

